

H24-D1-1 深度68.84~69.20m破砕帯範囲に断層ガウジの特徴を確認した (No.最-16) ため、断層ガウジの幅を変更 (No.最-17)

- 断層ガウジの幅の実測値0.1cmに変更した。

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料 (H24-D1-1 深度68.84~69.20m)

- 実測した断層ガウジの幅は0.1cmである。

コア写真



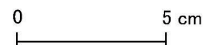
凡例

断層ガウジ ← → 破砕部範囲*

※:写真上は白色で記載



青枠部拡大



H24-D1-1 深度68.84~69.20m破碎帯範囲に断層ガウジの特徴を確認した (No.最-16) ため, 明瞭なせん断構造・変形構造の有無を変更 (No.最-18)

- 断層ガウジ「有」としたことから, 明瞭なせん断構造・変形構造の有無の観察を行った結果「無」とした。

明瞭なせん断構造・変形構造の有無 (H24-D1-1 深度68.84~69.20m)

- 最新活動面に沿った断層ガウジには複合面構造, 非対称構造, 層状構造のいずれも認められないことから, 明瞭なせん断構造・変形構造は「無」とした。

コア写真



凡例
 断層ガウジ ← → 破碎部範囲※ 最新活動面
 ※:写真上は白色で記載



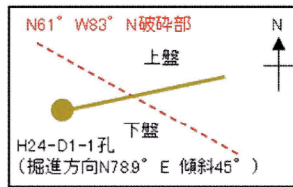
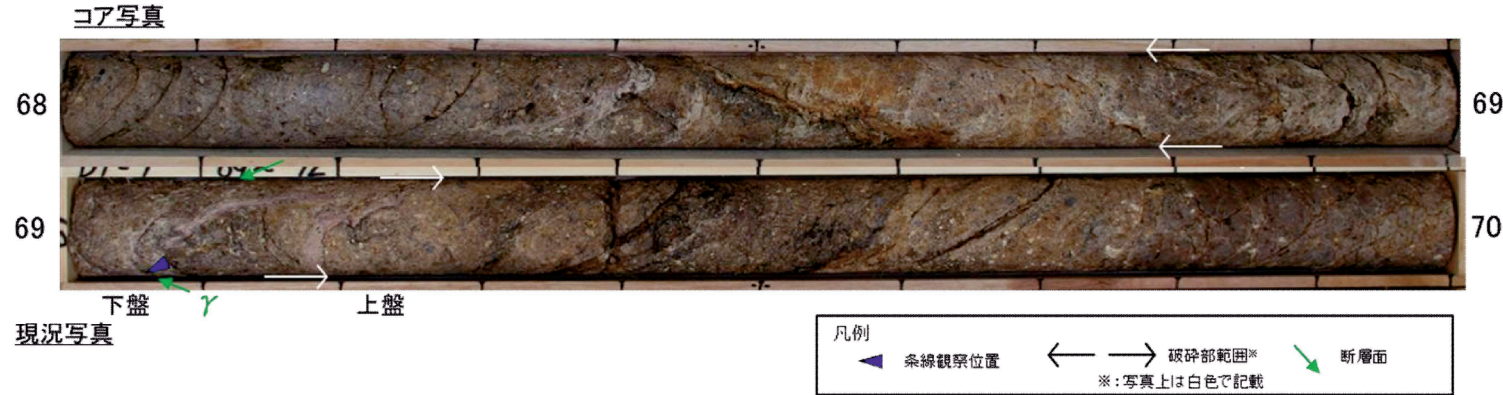
青枠部拡大

凡例
 断層ガウジ

0 5 cm

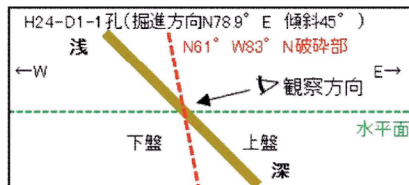
H24-D1-1 深度68.84~69.20m最新活動面 (No.最-13) の変更に伴い, 条線 (No.最-19) を変更

- 変更後の最新活動面において, 条線観察を行った結果である7Rに変更した。



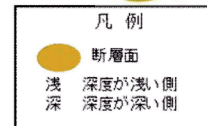
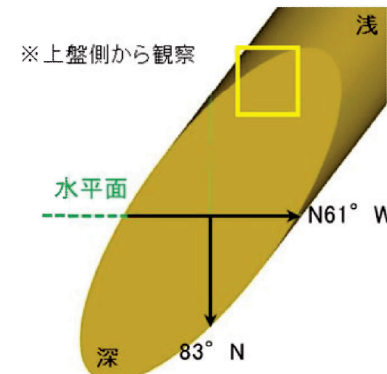
- ・ボーリングは掘進方向S78.9° E, 傾斜45° で掘削している。
- ・破碎部の走向・傾斜はN61° W83° Nであり, ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- ・破碎部は北傾斜であることから, 北側が上盤, 南側が下盤となる。

図1 H24-D1-1孔位置平面図(模式図)



- ・ボーリング(掘進方向S78.9° E, 傾斜45°)と破碎部(走向・傾斜N61° W83° N)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ・ボーリング孔の浅い側が下盤, 深い側が上盤となる。

図2 H24-D1-1孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から, 最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

H24-D1-1 深度68.84~69.20m最新活動面 (No.最-13) の変更に伴い, 条線 (No.最-19) を変更

- 変更後の最新活動面において, 条線観察を行った結果である7Rに変更した。

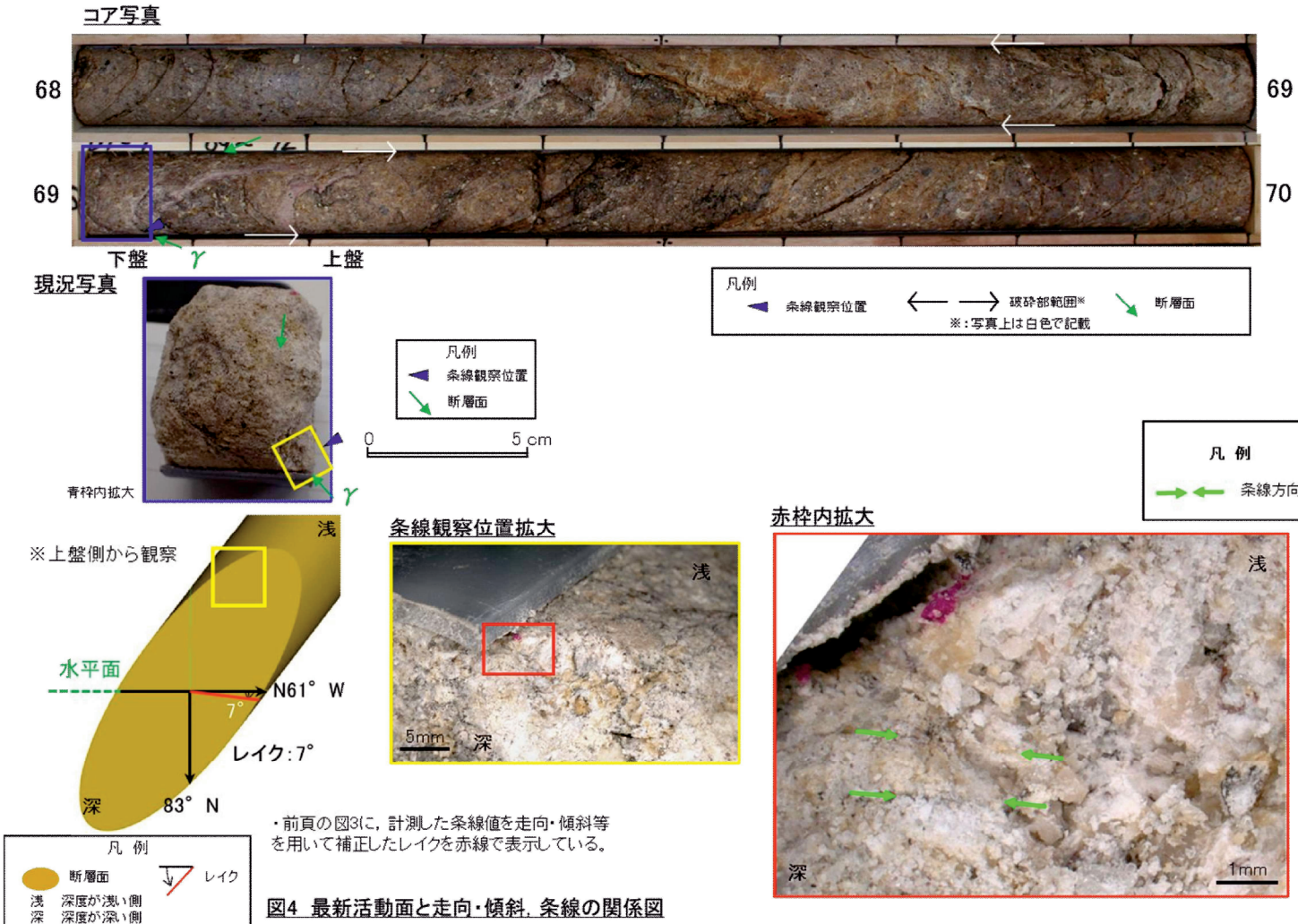


図4 最新活動面と走向・傾斜, 条線の関係図

H24-D1-1 深度68.84~69.20m最新活動面 (No.最-13) の変更に伴い, 条線 (No.最-19) を変更

- 条線は最新活動面において観察していることを確認した。



現況写真



青枠内拡大

5cm

凡例
断層面

凡例
 ▲ 条線観察位置 ← → 破砕部範囲*
 ※: 写真上は白色で記載

条線観察試料と研磨片の接合部

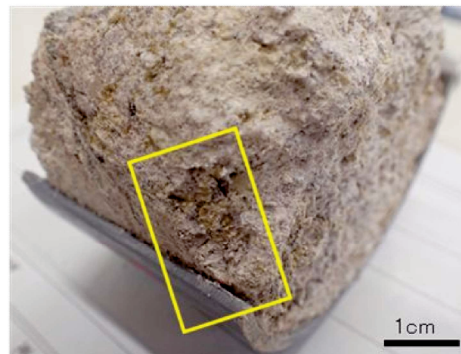


5cm



凡例
断層面

条線観察位置



1cm

条線観察位置拡大



5mm

黄枠内拡大

凡例
条線観察範囲